

平成27年度実施（26年度採択）中央区協働提案事業評価結果報告

この報告は、中央区協働事業提案及び協働事業実施要綱第13条第2項に基づき、中央区協働推進会議から中央区長に報告するものである。

1 評価の対象とした事業

(1) 「地域のつながりづくりコミュニティ」担い手養成 スタートアップ・プログラム
協働団体：特定非営利活動法人 CRファクトリー
区担当部局：区民部地域振興課

(2) 生活困窮家庭の子どもの学習支援事業
協働団体：特定非営利活動法人キッズドア
区担当部局：福祉保健部生活支援課

(3) 子育て支援運動教室～親子で遊ぼう～
協働団体：中央区地域スポーツクラブ大江戸月島
区担当部局：区民部スポーツ課

2 評価結果

別紙「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

3 評価経過

平成28年2月18日 中央区協働推進会議による実施報告会
平成28年2月24日 中央区協働推進会議による事業評価

4 評価方法

協働団体及び区担当部局から提出された実施報告書及び実施報告会を踏まえ、下記評価基準に基づき、全委員協議のうえ共通認識のもと評価した。

(評価基準)

(1) 事業の成果に関する評価

事業目的の達成度、事業実施における効率性・効果、受益者の満足度

(2) 協働の取り組みに関する評価

団体及び区の役割分担、相互理解・パートナーシップ

(3) 総合評価

事業継続の必要性

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	「地域のつながりづくりコミュニティ」担い手養成 スタートアップ・プログラム		
実施団体	特定非営利活動法人CRファクトリー		
担当課	区民部地域振興課		
目的	地域における顔の見えるつながりや生きがいとしての地域活動を行うため、町会・自治会等の地縁組織において「担い手」を養成するための講座等を開催する。		
事業の概要	① 地域活動への意欲喚起を目的した映画鑑賞会 ② 地域コミュニティ担い手養成講座の開催		
実績	映画「ふるさとがえり」上映会(全3回) 参加者 計128名 地域コミュニティの担い手養成講座(全6回) 受講者 28名	事業費	1,352,000円
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかという評価できる D: あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
担い手養成講座に関しては、受講希望者数を予定通り確保できた努力を評価できる。企画自体は地域住民が必要とする内容であることから、期待が大きい反面、その結果をどのように今後の地域活動へとつなげていくのが重要である。今後の取り組みの中で目に見える成果が出ることを期待したい。また導入に使った映画の内容が本区の実態と大幅に乖離していることもあり、映画鑑賞会から講座への参加を促すという企画設計について再考の余地がある。			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
養成講座に定員以上の応募があったのは、区による広報や働きかけが功を奏したと考えられる。一方で、団体は専門的知見やノウハウを活かした講座を展開しており、行政と団体、双方の強みを活かした役割分担ができていた点は評価できる。			
受益者の満足度はどうであったか		B	
受講者アンケートの結果からは受益者の満足度は高かったことが窺えた。また、受講者同士のつながりができたことは大きな収穫であったと思われる。さらに、アンケートからは他に学びたかったことが具体的に出されていたこともあり、個別のニーズに応じたきめ細かいフォローも望まれる。			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>必要な協議を重ねることを通じて、互いの特性を活かせるよう役割分担を整理しながら協働的に進められるとともに、進捗状況や問題点なども情報共有ができていた。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	A	
<p>団体側が提供する知的資源と区の抱えている問題意識がマッチし、相互理解と互いの役割分担のもと事業構築ができたと考える。さらに、区が地域のニーズをより具体的に団体側へ情報提供することで、その地域特性にあった担い手の養成が可能になるものと考ええる。</p>		
総合評価コメント		
継続すべきである	一部修正を要するが継続すべきである	再検討を要する
<p>地域に長年暮らしてきた住民と高層住宅を中心に増え続ける新住民の両方を抱える自治体として、人々をつなげる地域活動団体の担い手の養成は、今後必須であると言える。今回の事業は、そのスタートとして貴重なものである。一方で、その効果を検証していくことが今後の課題であり、フォローアップのシステムづくりとともに、この事業の効果を地域コミュニティに活かしていくことを期待している。</p> <p>映画上映会は、講座受講の契機とはならなかった点に関しては、改善策などの協議が今後必要である。今後は、都心区の特性に鑑み、地域住民だけでなく事業所や在勤者を運営に巻き込むといった視点も持ち、多面的に担い手を増やすことで地域活性化に寄与してもらいたい。参加者の満足で終わらせず、継続的に発展的な活動を支援していくことが望まれる。</p>		

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	生活困窮家庭の子どもの学習支援事業		
実施団体	特定非営利活動法人キッズドア		
担当課	福祉保健部生活支援課		
目的	生活困窮家庭の子どもに対して、大学生ボランティアによる無料の学習会を実施することにより、学力向上のみでなく、学習習慣の定着や自分一人でも学ぶことのできる力を身に付けさせる。		
事業の概要	① 無料学習会の開催(通年実施) ② 特別講習の開催(夏季、冬季講習等)		
実績	登録者数 計25名 (小学校4年生:9名 小学校5年生:5名 小学校6年生:7名 中学校1年生:4名)	事業費	2,221,800円
評価	A:高く評価できる B:評価できる C:どちらかという評価できる D:あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
就学援助等の児童・生徒を対象とするため、個人情報の管理や子どもたちへの配慮が十分になされた事業運営であった。保護者及び子どもたち対象のアンケートでは、保護者の9割が何らかの学習習慣の定着を感じており、社会性の面でも自主的な清掃や学校の先生へ挨拶ができるようになったなどの変化が報告されていた。 一人で学習を続けるには未だ端緒の状況である。また、より多くの子どもたちが参加できる運営上の工夫が求められる。			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
周知と募集は行政の力が欠かせない分野であったし、保護者の信頼感にもつながった。一方、団体ならではの多世代ボランティアによるマンツーマンの学習環境づくりができたことは効果的であった。毎回の学習会終了後に行われていた団体と行政職員の意見交換は、効率・効果的な事業運営につながっており評価できる。			
受益者の満足度はどうであったか		A	
保護者に対するアンケート結果からは、「学習会に参加してから、自分で課題を見つけ家で取り組んでいます」「以前は家で勉強する様子がなかったので、学習会での様子に驚いています」といった学習習慣が身に付いたとの回答が多く、子どもに対するアンケートで「今後も学習会に参加したいか」という質問に対し約8割の子どもが「参加したい」と回答しており受益者の満足度が高いことが窺える。			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価
団体と区との役割分担はうまくできたか	B
<p>団体は学習指導の現場、行政は管理を担うといった役割分担がされていた。 また、異年齢の多様な子どもたちが集う中、教育委員会の協力のもと子どもに関する情報を共有するなど、事業運営上必要な協力は得られていた。</p>	
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	A
<p>事業運営時には必ず行政職員がサポートできる形で立ち会い、子どもたちへの声かけやボランティアの活動を観察・支援をしており、回を重ねる度に相互理解とパートナーシップは深まったと言える。</p>	
総合評価コメント	
<p> 継続すべきである 一部修正を要するが継続すべきである 再検討を要する </p>	
<p>家庭環境や経済事情等に起因する貧困の連鎖防止を目的に、当該世帯の子どもたちに学習習慣を定着させ、分かったり、できたりといった体験を積み重ねることで、自分ひとりでも学び始める意欲・姿勢を身に付けさせようとする事業である。</p> <p>アンケート結果にもあるように、子どもたち自身が学習の成果を確認でき、向き合ってくれる保護者以外の大人(ボランティアスタッフ)に自身が認められる体験は、学習面だけでなく子どもの成長の支援につながっており、その点でも効果のある事業と考える。</p> <p>今後も教育委員会及び学校現場、他部署との連携を図りながら、教材やボランティアの確保などを工夫しながら、息長く、継続的に事業を実施していくべきである。</p>	

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	子育て支援運動教室～親子で遊ぼう～		
実施団体	中央区地域スポーツクラブ大江戸月島		
担当課	区民部スポーツ課		
目的	アスリートを活用した親子参加型のイベントや各種スポーツ教室を開催することで、未就学児とその保護者の運動機会を増やし、日常的な運動習慣の形成を図る。		
事業の概要	① アスリートを活用したイベントの開催 ② 各種親子向けスポーツ教室の開催		
実績	親子向けサッカー教室(平成27年8月29日(土)実施) 参加 71組 各種親子向けスポーツ教室 参加 計58組 (ビーチボールバレー:12組 野球:24組 フットサル:22組)	事業費	1,053,800円
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかという評価できる D: あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
就学前の幼児が親と一緒にスポーツ・運動を楽しむ機会づくりの意義は大きい。当該目的は達成しているものの、「仲間づくり」や習慣化に向けた具体的な方法が見られず、その結果も把握できていない。この点も重視したうえで、今後事業内容を再考し、当初の目的を達成してもらいたい。			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		B	
今回多くの申込みがあったのは、区との協働により、これまでできなかった保育園・幼稚園へのチラシ配布に加え、実施団体自身による広報に起因するものと考えられる。区により運動スペースが確保された一方、団体のノウハウを活かしながら区では難しい未就学児と保護者を対象とした事業を実施できた点は評価できる。今後は、幼児期からの運動事業の展開や保護者世代におけるスポーツ実施層の拡充に向け、さらなる分析を期待したい。			
受益者の満足度はどうであったか		A	
アンケート結果を見ても、好意的な回答がほとんどであり、受益者満足度は高いと思われる。親子ともども「楽しかった」という感想は「家庭内の運動を続けたい」というスポーツや運動意欲の向上にもつながったものと考えられる。			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	B	
<p>必要な話し合いを重ねることで、役割分担をしながら協働的に進められていたと考えられる。適宜情報を共有しつつ、団体は講師折衝と運営、一方で区は会場確保と広報など、役割分担はできていた。区側が区内の保育園や幼稚園、子ども園への周知を行ったことで、参加者の確保や、学校との信頼関係づくりなどもスムーズに行えた一方で、区に蓄積されていくべき専門性や経験値があまり見えてこないところもあり、この点については検討の余地はある。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	B	
<p>これまで取り組めなかった幼児の運動に関する場が実現したことは、団体と区の協働よってなし得た事業であったと考える。元々区の支援のもと創設された団体ではあったが、本事業を通じて、相互理解・パートナーシップはさらに深まっている。働き盛り世代のスポーツ実施率や子どもの体力が問題視される中、未就学児と保護者を同時に対象とする本事業を継続することは意義がある。相互の信頼関係も深まり今後の事業の発展も期待できる。</p>		
総合評価コメント		
継続すべきである	一部修正を要するが継続すべきである	再検討を要する
<p>団体側が保有する運動指導技術や人的資源と区の抱えている問題意識の方向性がマッチし、相互理解と役割分担のもと実施された事業であると考えられる。さらに求めるならば、幼児の特性から、競技以前の遊びの延長として運動を楽しむ機会の創出や、有名アスリートの招聘に拘らず、熟練した地域スポーツ指導者による教室の開催も期待したい。今後については、身体づくりなど基礎的な運動能力の向上も含めたプログラムを開発するとともに、区においてもノウハウを蓄積し、当該団体以外の団体や組織と連携しながら幅広い参加が可能な事業展開の検討が望まれる。以上の点を含め、次年度以降も継続すべきである。</p>		